

占用工事に伴う復旧範囲の許可基準

1 舗装道の表面仕上げ

- (1) 掘削部分の外側の舗装の絶縁線で囲まれた部分について行うものとする。
 (2) ア及びイに該当する場合は、掘削部分の端からの距離が n の値の直線で囲まれた部分について行うものとする。

掘削部分の端から舗装の絶縁線までの距離が $n = k \times t$ の式によって計算した

ア n の値以下である場合

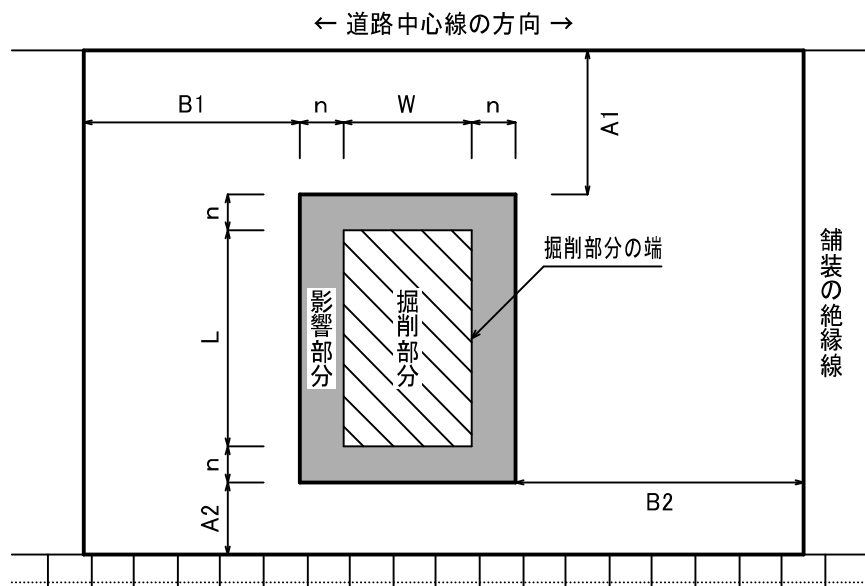
イ n の値に 1.2 (1.8) メートルを加えた値以上である場合

k アスファルト系舗装の道路にあつては、1.0

セメントコンクリート表面処理の道路にあつては、1.4

t 掘削部分の路盤の厚さ

() 内はセメントコンクリート表面処理の場合



単位: m

復旧面積 (㎡)	$(L + 2 \times n + A1 + A2) \times (W + 2 \times n + B1 + B2)$
L	掘削部分の長さ
W	掘削部分の幅
n	路盤厚さ \times 1.0 (または 1.4) (路盤が 1 層の場合又は路盤厚さが不明な場合は 0.3 とする。)
$A1 \cdot A2 \cdot B1 \cdot B2$	影響部分外側の舗装絶縁線まで距離 ($0 \leq A1 \cdot A2 \cdot B1 \cdot B2 \leq 1.2$ (1.8))

道路標準構造図に記載されている舗装構成の n の値（単位：m）

舗装名	$n = k \cdot t$
N 7	0.75
N 6	0.60
N 5	0.55
N 4	0.50
N 3	0.35
N 2	0.30
N 1	0.30
歩道アスファルト舗装 歩道ブロック舗装	0.30
セメントコンクリート表面処理	0.42

路盤が 1 層の場合又は路盤厚さが不明な場合は $n = 0.30$ とする。

(3) 絶縁線の位置

ア アスファルト系舗装の道路

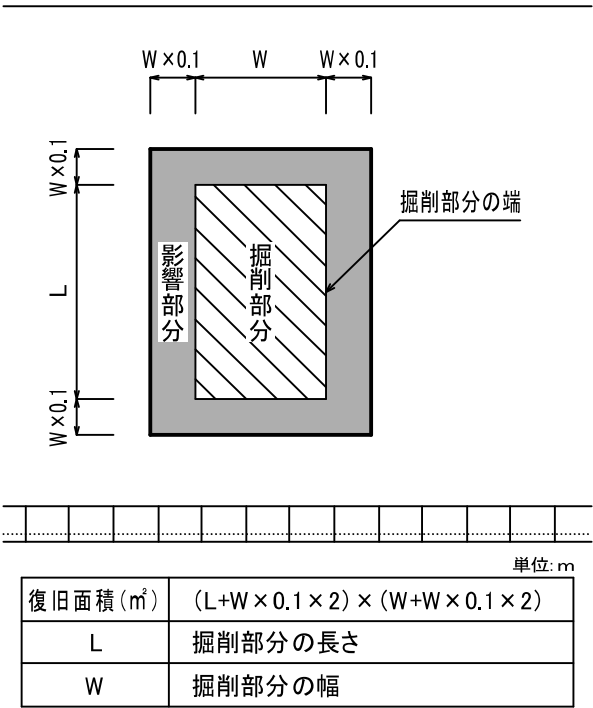
道路中心線方向及び交差点については、図—①～③のとおりとする。

イ セメントコンクリート表面処理の道路

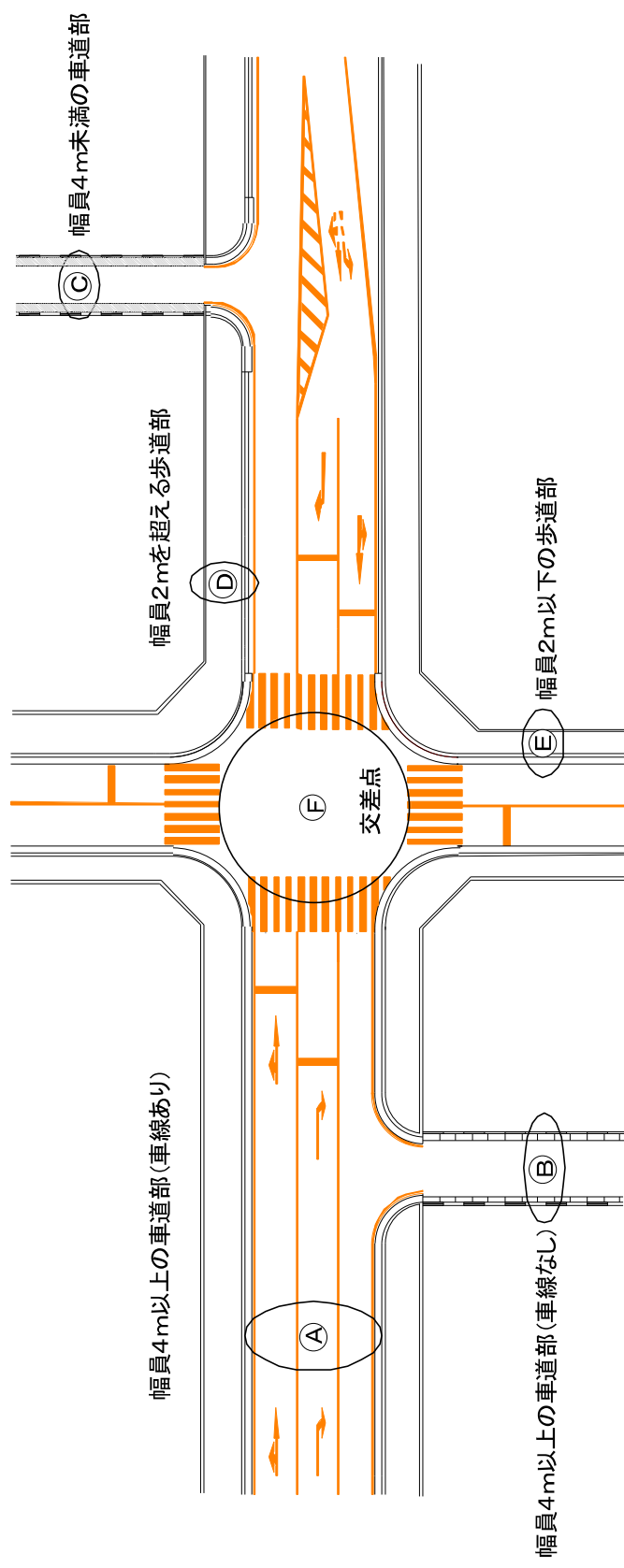
既存の膨張目地が設置されている位置とする。

2 舗装道以外の道路の埋め戻し

- (1) 掘削部分の端からの距離が掘削部分の幅に 0.1 を乗じて得た値に相当する直線で囲まれた部分について行うものとする。

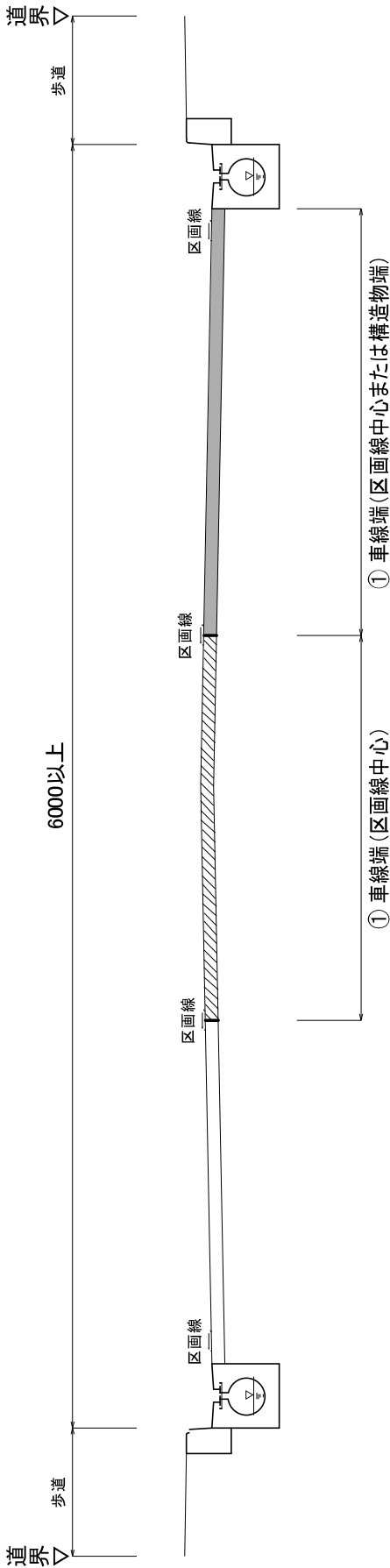


絶縁線の標準施工位置(平面図)

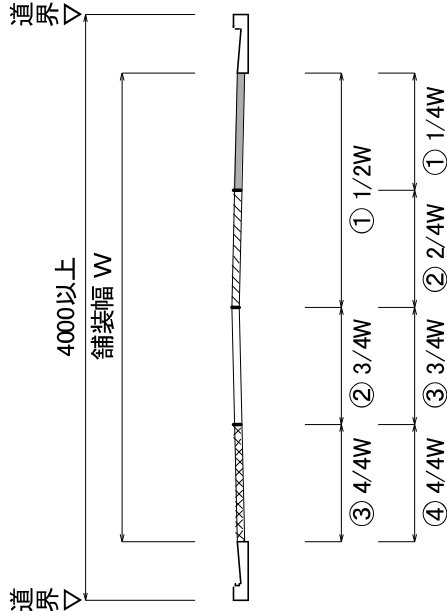


絶縁線の標準施工位置 (道路中心線の方向)

① 幅員6m以上の車道部(車線あり)



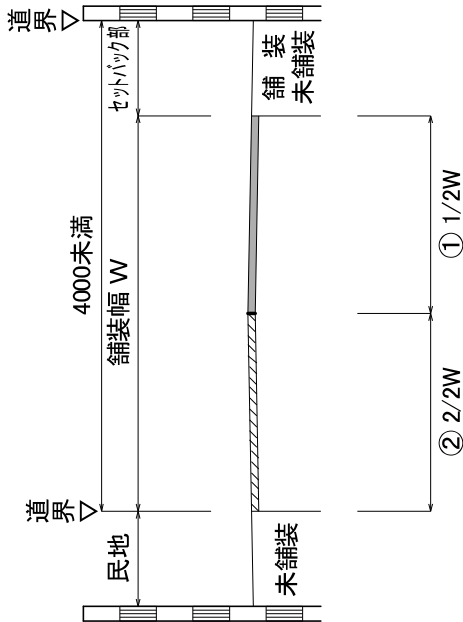
② 幅員4m以上の車道部(車線なし)



4.0 ≤ 道路幅員 ≤ 5.0

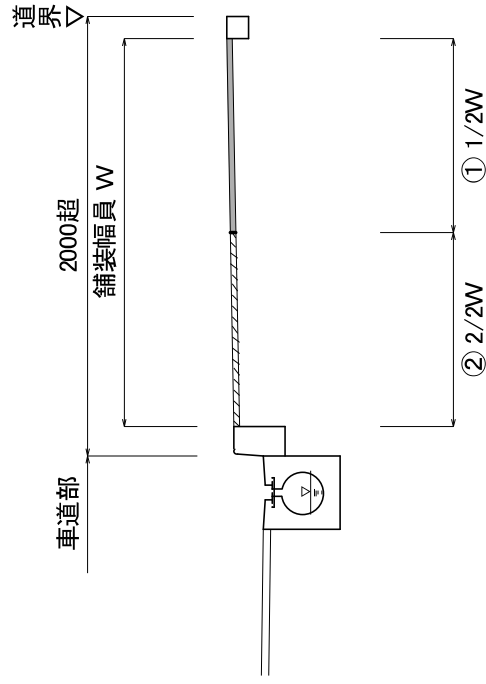
5.0 < 道路幅員

③ 幅員4m未満の車道部

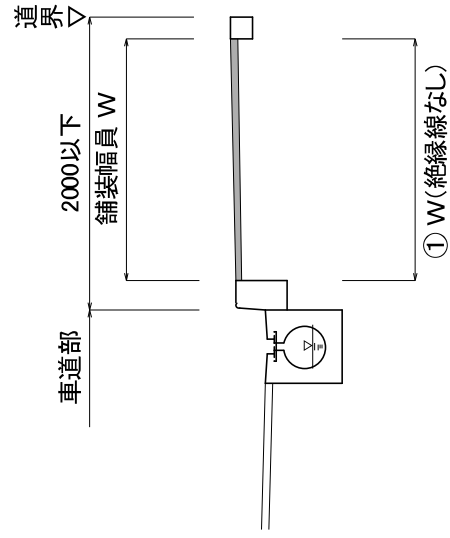


絶縁線の標準施工位置 (道路中心線の方向及び交差点)

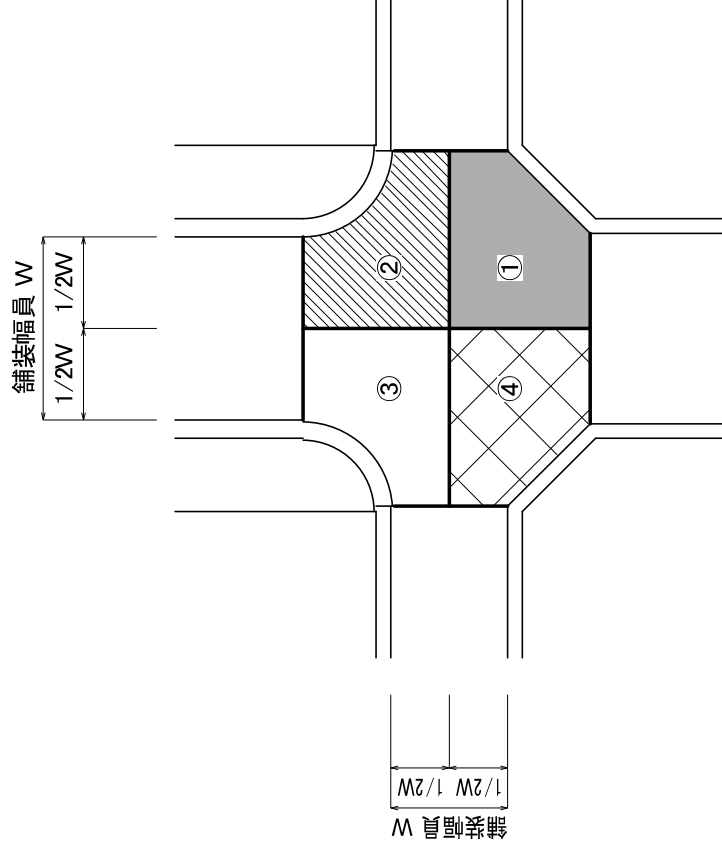
④ 幅員2mを超える歩道部



⑤ 幅員2m以下の歩道部



⑥ 交差点

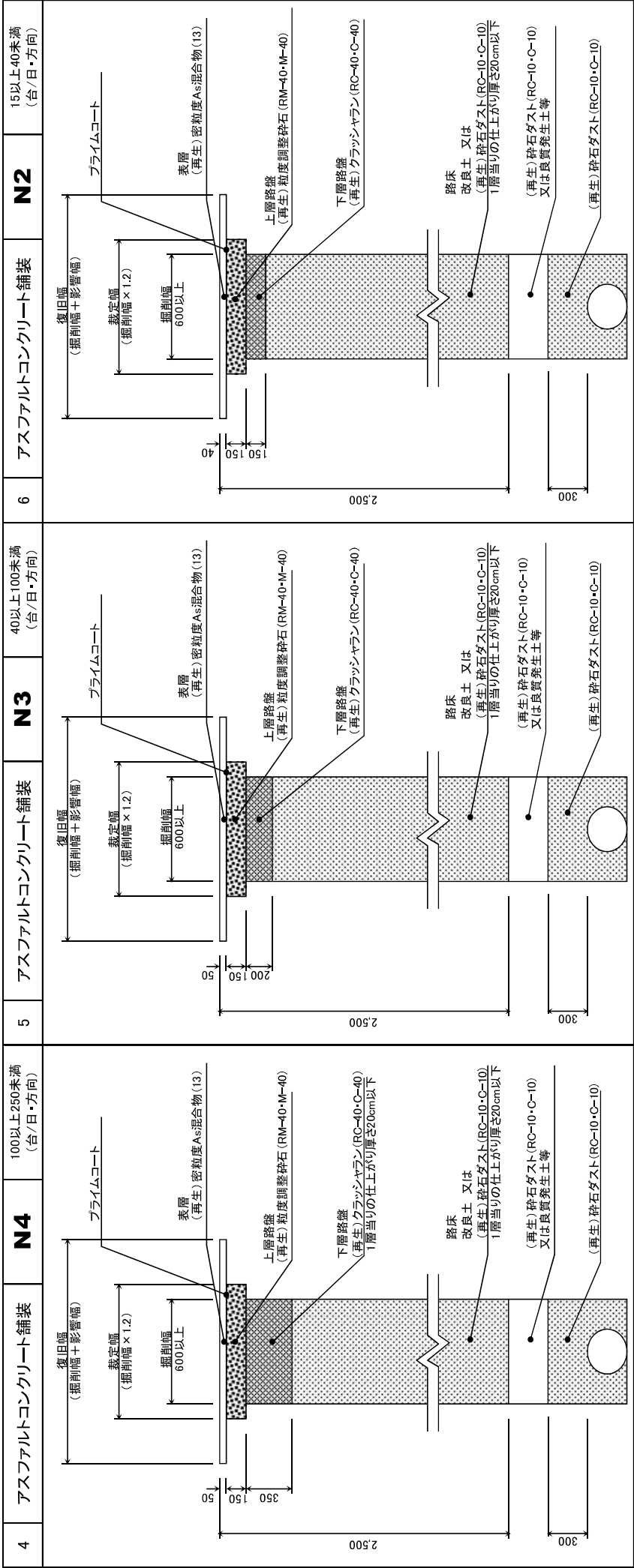


復旧断面図 (2/4)

特記事項

1. 石油アスファルト乳剤は均一に散布すること。
- ・ タックコート PK-4 0.4 ℓ/m²

・ プライムコート PK-3 1.2 ℓ/m²
2. 貫入試験合格値は、各使用材料の基準値とする。
3. 路面から管防護(管上から30cmまで)の深さが2.5m以上ある場合、2.5mから管防護までの範囲については、良質発生土を使用できる。
4. 改良土はCBR5%以上のものを使用すること。



復旧断面図（4/4）

特記事項

1. 石油アスファルト乳剤は均一に散布すること。
 - ・タックコート PK-4 0.4 ℓ/㎡²
 - ・プライムコート PK-3 1.2 ℓ/㎡²
2. 貫入試験合格値は、各使用材料の基準値とする。
3. 路面から管防護（管上から30cmまで）の深さが2.5mから管防護までの範囲については、良質発生土を使用できる。
4. 改良土はCBR5%以上のものを使用すること。

